

「道徳の時間」学習指導案

呉市立三津口小学校

指導者 中塩 曜子

- 1 日 時 平成25年7月3日(水) 第6校時
- 2 学年・学級 第6学年1組 男子13名 女子6名 計19名
- 3 主 題 名 働くことは 内容項目 4-(4) 勤労・奉仕
- 4 ね ら い 動物園園長の西山さんの初めての仕事である動物園の便所掃除からの学びを考えることを通して、働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って、公共のために役立つとうとする態度を養う。
- 5 資 料 名 ぼくの仕事は便所そうじ(文溪堂)
- 6 主題設定の理由

- いわゆる「汚い・きつい・苦しい」仕事は敬遠されがちである。カッコいい仕事、目立つ仕事には注目するが、目立たない仕事や骨の折れる仕事を避けようとしたり自分以外の人に任せてしまおうとしたりする傾向がある。小学校第6学年の段階においても、この傾向がみられる。そこで、勤労が自分のためだけではなく、社会生活を支えるものであることを理解し、社会への奉仕活動など公共のために役立つ活動に目を向け、積極的に取り組むことができるようにすることが必要であると考え。勤労を尊ぶ心を育て、働くことの意義を理解して社会の役に立つことができるようさせたい。そのことから得られる喜びを基に、社会に奉仕し、公共のために役に立つとうとする心構えを育てることが大切であると考え。
- 本学級の児童は、6年生になり、委員会やたてわり班活動など、学校生活の様々なところで周りの人のために役立つ仕事をしている。係活動を工夫し、学級のみんなが楽しく生活できるように考えて活動できる児童もいる。しかし、毎日の旗揚げのように、どちらかと言えば面倒だと思える仕事には積極的になれないという児童もいる。生活の中での仕事は、やりたいとかやりたくないという自分の気持ちが先行している児童も多い。働くことの意義を理解し、みんなのために役立つ喜びを知り、公共のために役立つとうとする態度を養いたい。
- 本資料は、カバ園長と呼ばれ親しまれた西山登志雄さんが、初めて仕事をした上野動物園の便所掃除を通して、働くことの喜びを感じ、懸命に働くことを決心するという内容である。子どもたちにとって楽しい気持ちになる場所である動物園という設定と、その楽しさを提供するためには様々な仕事があるのだとする内容の取り上げられ方は、子どもにとって物事を多面的にみることに役立つ、仕事についての意義をより深く考えられるものであろう。ある冬の寒い日、西山さんが便所掃除をしていると、「この便所は誰がそうじしてくれたのかしら。とてもきれいになっていて、使っていて、ほんとに気持ちがいい。ありがたい。ありがたい。」と言いながら出てきた女性の言葉をきっかけに、懸命に働くことを決心する。やればできるようになるという自信と、働くことの喜びを教えてくれたこの言葉は、働くことは、社会に奉仕する喜びにつながるものだと気付かせることができると考える。
- 指導に当たっては、おばあさんの「ありがたい。ありがたい。」という言葉聞いて、「ぼく」の気持ちが懸命に働くことへと変化していることに気付かせ、自分の仕事が周りの人々の役に立っていることや働くことの意味について深く考えさせる。中心発問となる、1年間の便所掃除の仕事は、「ぼく」にどんなことを教えてくれたのか考えさせる場面では、自分の考えをもたせるための書く活動、友だちの考えを聞き合うグループトークを設定する。その上で、「そうじをしてありがとうと言われてよかった。」という他律の段階から「仕事をするのは周りの人々の役に立ち、それが自分の喜びになる」という働くことの意義を考える自律の段階にまで高めるために、児童のねらいに対する価値観を類型化して板書を行う。このことから、児童一人一人の考えを広げたり深めたりさせたい。

安浦中学校区小中一貫教育の研究主題にかかわって ～自尊感情を高める～


人は、自己実現、自己の確立に向けて、社会とかかわりながら生きようとする。「働くこと」は、自分のためだけでなく、社会生活を支えるものであり、そこから得られる喜びと自信は自尊感情につながるものであると考える。本資料を用いて、西山さんの仕事をする心情の変化をとらえ、周りの役に立つことを知った後の仕事に向かう心情を深く考えさせたい。その上で、展開後段では、児童の体験や活動と関連させ、自分も周りのために役立つ仕事をしているのだと気付かせ、自尊感情を高める場としたい。

7 各教科等との関連構想図

時期	各教科等	道徳の時間	日常的な活動 家庭・地域との連携	児童の意識の流れ
5月	<p>社会科「国づくりへの歩み」 米づくりが始まり人や社会の様子の変化を調べる。</p>	<p>主題名 役割の自覚と責任 4-(3) 資料名 「幸せをおくるリーダーに」(東京書籍) 集団の中で責任を持って主体的に自分の役割を果たし、協力して集団の向上に努めようとする態度を養う。</p>	<p>清掃活動 たてわり班のリーダーとしての自覚と責任をもって掃除に取り組む。</p> <p>委員会活動 よりよい学校にするために、責任をもって仕事に取り組む。</p>	<p>自分の仕事に責任をもってやらなければならない。</p>
	<p>家庭科「くふうしよう朝の生活」 家族に協力し、家庭生活をよりよくしようとする意欲をもつ。</p>	<p>主題名 目標に向けて 1-(2) 不とう不屈 資料名 「夢をつかまえよう！」(東京書籍) より高い目標に向かって、障害や困難に打ち勝ち、ねばり強くやり通そうとする態度を養う。</p>	<p>パワーアップ週間 自分の生活を見直す。</p>	<p>自分の目標に向かって努力していきたい。</p>
7月	<p>国語科「ばらの谷」 ばら作りの職人である中心となる人物の変容や題名などを手がかりに、物語が自分に最も強く語りかけてきたことをとらえる。</p>	<p>主題名 働くことは 4-(4) 資料名 「ぼくの仕事は便所そうじ」(文溪堂) 働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って、公共のために役立とうとする態度を養う。</p>	<p>資源回収 物の大切さに気付き、仕事の大変さを体験する。</p>	<p>仕事をするのは大変だけど、気持ちがいいものだ。</p>
				<p>働くことは、周りの人のために役立つことなんだ。自分が人の役に立てると気持ちがいい。</p>

働くことの意義が分かり、社会のために働き公共のために役立つ子

8 学習指導過程

	学習活動	○主な発問 (◎中心発問) ・児童の心の動き	○指導上の留意点 ☆評価
導入	1 「やってみたい仕事アンケート」の結果を見て、話し合う。	○ やってみたい仕事アンケートの結果を見てみましょう。 ・スポーツ選手。有名になれるから。 ・お店を開く。お金持ちになれるそうだから。	○ やってみたい仕事だけでなくその理由に着目させ、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。
展開前段	2 資料を読んで話し合う。	○ 「ぼく」は、どんな気持ちで便所掃除をしていましたか。 ・やりたくない。 ・動物の世話をしたい。 ・なぜ人間の便所掃除をしなければならないのか。 ・仕事だから仕方がない。 ○ おばあさんの「ありがたい。ありがたい。」という言葉聞いて、「ぼく」はどんな気持ちになったか。 ・便所掃除はいやだったけど、やってよかった。 ・ありがたいと言ってくれてうれしい。やってよかった。もっときれいにしよう。 ・喜んでくれる人がいるんだ。便所掃除はやりがいのある仕事だ。 ◎ 1年間の便所掃除の仕事は、「ぼく」にどんなことを教えてくれたのでしょうか。 自律 ↑ 他律 ↓ ・いやな仕事でもがんばったら、お礼を言ってもらえる。 ・仕事を続けるといいことがある。 ・いやな仕事でもやりとげたら、自分がいい気持ちになる。 ・ぼくが仕事をする事で、周りの人を喜ばせることができたのでうれしい。 ・働くことは、他の人をよい気持ちにさせることなんだな。自分もよい気持ちになった。役立つ人になりたい。	○ 時代背景や人物紹介を行ったり、場面絵を用いたりして、資料を読み聞かせることによって、内容を正確に把握させる。 ○ 自分たちの普段の生活を想起させ、便所掃除をする「ぼく」の心情に共感させる。 ○ 児童のねらいに対する価値観を類型化した板書をする。 ○ 多様な価値観を全体で交流することによって、社会に奉仕する喜びを知り、公共のために役立つとうとすることについて考えを深めさせる。 ☆ 西山さんの、仕事に対する意識の変化に共感し、働くことの意義について考えを深めることはできたか。
展開後段	3 生活を振り返り、働く喜びを感じた経験について話し合う。 	○ 学校での委員会や当番、係活動、地域や家庭での活動をして、やってよかったと思っただけのことではあるか。 ・学校園の水やりを忘れずにやってきた。花がきれいにさいた時は、うれしかった。 ・毎日、家の風呂掃除をしている。洗うと自分も気持ちがいい。家族が「いい気持ち」などと言ってくれることがうれしい。	○ 日常の生活を振り返り、自分だけでなく周りの人のために役立つ経験を想起させ、自尊感情を高める場とする。
終末	4 教師の説話を聞く。	○ 「三方よし」という言葉があります。 ・働くことは、自分のためだけではなく、周りの人々のためにもなることなんだな。自分も役立つ人になりたい。	○ 心のノート「働くってどういうこと」から働くことの意義を表した言葉を知り、今後への意欲付けとする。